

昭和63年8月2日第3種郵便物認可 平成18年10月1日発行（毎月1回1日発行）第270号



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

# しらこぼと

2006.10

No. 270

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



# 2006年夏 コアジサシのコロニー保護活動

日本野鳥の会埼玉県支部役員会

## ●発端

7月4日(火) 1本の電話が支部事務局にかかってきました。さいたま市桜区で大規模マンション建設計画が進んでいるが、その敷地内にコアジサシ数十羽がいて、子育てをしているようだ、何とかならないだろうか、との相談でした。

工事開始が7月10日(月)に差し迫っている事と工事担当の連絡先を確認、7月7日(金)、海老原美夫副支部長が電話で、

- ① コアジサシのコロニー保護のため、最大8月末まで工事を停止してほしいこと、
- ② これは周辺住民のマンション建設反対運動とは無縁の、野鳥のための要請であること、
- ③ コアジサシが抱卵、子育て中であることを承知の上で工事を強行すれば、鳥獣保護法違反になるかもしれないこと、
- ④ 県支部幹事である福井恒人県鳥獣保護員ほかの立ち入り調査を認めること、を申し入れました。

その日、福井を通じて知らせておいた県みどり自然課野生生物担当から2人が現地に駆けつけ、建築主側の担当者との出会い、同様の申し入れをして、話し合いが始まりました。

## ●現地調査と書面での申し入れ

7月8日(土)、海老原が現地調査、工事に関する表示などを確認し、道路を隔てたマンション2階廊下などから観察しました。

15階建てマンションを14棟建設する予定の敷地内に、写真下のように碎石が台地状に積み上げられていて、雛の姿はまだ見えませんが、その上でコアジサシがコロニーを形成



していました。

7月11日(火)には福井が立ち入り調査を実施し、埼玉県支部としてあらためて次のような書面による申し入れをしました。

2006年7月11日

Z社様 T社様

日本野鳥の会埼玉県支部 支部長 藤掛保司  
絶滅危惧種コアジサシのコロニー保護についての要望書

【要望の趣旨】 建築主Z社様、工事施工T社様が建築計画進行中の、さいたま市桜区〇〇を敷地とする〇〇計画について、現在敷地内で数十羽のコアジサシがコロニーを形成し、繁殖行動をしています。その繁殖行動が終了するまで工事を停止し、コロニーを保護してくださいませよう、お願い申し上げます。

【コアジサシのコロニーの重要性】 コアジサシは、環境省のレッドデータブック(『改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物』)で絶滅危惧Ⅱ類種、「種の保存法」で国際希少野生動物植物種、「日米渡り鳥条約」・「日露渡り鳥条約」・「日豪渡り鳥条約」・「日中渡り鳥条約」の指定種、「ボン条約」附属書Ⅱ掲載種である世界的に貴重な鳥です。(中略)内陸部である埼玉県内では小規模でも貴重なコロニーです。

周辺住民などの関心も高く、数名の方から、なんとか子育てが終わるまで工事を待ってもらえないだろうかという相談が、当支部に寄せられています。

【コロニーの現状】 当支部の副支部長海老原美夫が7月8日(土)敷地外から調査したところ、最少30羽から最多60羽程度の成鳥がおり、最少10巣から最多30巣程度で抱卵していると推定され(中略)、当支部幹事の埼玉県鳥獣保護員福井恒人が7月11日(火)ご許可をいただいて立ち入り調査したところでは、もっと多くの抱卵巣があるのではないかとのことです。

(中略)鳥獣保護法のご尊重いた

だき、小さく健気なコアジサシたちのために、巣立ちまでの時間の余裕を与えていただきたく、心からお願い申し上げる次第です。

県からも同様趣旨の公文書が両社に対して出されました。

### ●個体数は推定で

砕石台の上面は凹凸が激しく、見る事ができるのは、全体の一部にすぎません。福井の立ち入り調査でも、砕石台そのものは崩れやすく、上に登ることはできません。総数については、推定に頼らざるを得ません。

### ●立ち入り禁止区域の設定・誕生・成長

コロニーに影響のない工事は進行するが、砕石台と、その近くの水たまり(雛が生長するとそちらに移動するはずですから)の周辺 50mを立ち入り禁止区域として工事を停止することになり、7月23日(日)には、雛の姿が確認できました。

7月29日(土)、孵化後1週間以上のものも含めて10羽程度の雛が同時に観察され、繁殖のピークを迎えました。孵化後15日から17日で飛べるようになります。



7月29日 親(左)と2羽の雛(右)

8月3日(木)付け読売新聞朝刊埼玉県版に海老原がこの事についての小文を掲載、同日、支部としてZ、T両社に対し、それまでの協力に対する感謝の念を伝え、コアジサシの様子などを中間報告する手紙を送りました。

### ●幼鳥の飛び立ち・立ち入り禁止区域の縮小

8月3日(木)、福井が立ち入り調査をしたところでは、台の上に雛や抱卵姿の成鳥などは見当たらず、台の近くに寄っても、親鳥た

ちの攻撃がなくなったことから、全部が台の上から水たまり周辺に移動したのだろうと判断して、立ち入り禁止区域を台の近くまで縮小、8月11日(金)には初めて台に登って調査した上で、砕石台を半分まで取り崩すことに同意しました。

一方、海老原の調査では、8月12日(土)、まだ台上に幼鳥4羽などがいましたが、皆飛べるまでに育っていて、砕石台の上という環境にのみ依存している状態ではないと考えられました。台下には幼鳥8羽がいました。



8月12日 もうすぐ飛び立ち

その日の午前9時からの1時間半ほどの間に、幼鳥4羽が、親に連れられて次々と南の空に飛び去りました。見えなくなるまで、双眼鏡であとを追いました。孵化後1週間以内の雛はもはや見当たりませんでした。

8月13日(日)には、台上の幼鳥は1羽、台下は4羽と、少なくなりました。7月29日から数えると、15日目に当たります。

### ●工事再開

8月16日(水)、福井が調査、台下の水たまり周辺も含めて敷地内に1羽もコアジサシがないことを確認、それ以上工事をとめておく理由がなくなりました。翌17日(木)からの工事再開を認めました。

結局、工事を一部停止した期間は38日間に及びました。そのまま工事が進んでいればこの世に生まれることがなかったコアジサシ、数十羽程度が飛び立って行ったのではないかと、推定しています。

(文責・写真 海老原美夫)

# 野鳥記録委員会の最新情報

日本野鳥の会埼玉県支部記録委員会

## ●シロハラクイナの繁殖

英名 White-breasted Waterhen

学名 *Amaurornis phoenicurus*

分類 ツル目クイナ科シロハラクイナ属

本誌8月号(第268号)で県内2例目の確認記録として報告したさいたま市桜区堤外地における本種の繁殖を観察したので、報告します。繁殖は県内初の記録です。

### 営巣地周辺環境など

大部分が水田、その中にアシ原、林、休耕地が混在する堤外の河川敷。堤防近くに位置する中心部マコモ、周辺部アシで構成されるアシ・マコモ群落(南北約30m、東西約15m、下写真の中央)が、2006年6月14日(水)に発見されて以来の本種2個体の時であり、営巣場所にもなりました。



### 観察経過

7月9日(日)には、そのアシ・マコモ群落の中で抱卵を交代するような2羽の出入りを、観察しました。

7月22日(土)、小魚、ミミズ、昆虫などの餌を何度も運び込む行動から、雛がすでに孵化していると推測されました。

7月23日(日)午前11時40分頃、親が呼ぶ声に導かれ、雛5羽がアシ・マコモ群落から初めて出てきて、立ち会った数名が、写真やビデオの撮影に成功しました。

梅雨が明けて田んぼの乾燥が進むと、8月6日(日)、土手下にしみ出ている水たまりでミミズを捕えて雛にあたえ、台風7号で田んぼに水が戻ると、8月13日(日)、時の南約100mの畦でミミズ、ドジョウなどをあたえ、時には稲穂をついばむなど、状況に応じて

様々な行動が見られました。

7月26日(水)の農業散布、8月13日(日)のさいたま市花火大会(時の数百mの地点で打ち上げ、数十万人が集まった)には、結果として大きな影響は受けなかった様です。

8月20日(日)までは幼鳥5羽は一緒に行動し、親から餌を貰っていましたが、8月26日(土)には自分で採餌、それぞれが単独で行動するようになり、同時に5羽を見ることはできなくなりました。大きさは親鳥とほぼ同じ、風切羽は半分程度まで伸びました。

この段階までの観察結果は、以上です。



7月23日(日)



8月13日(日) (3週間後)



8月26日(土) (約5週間後)

なんだか元気が出てきます  
青木 里美 (さいたま市)

私が初めて探鳥会に行ったのは小学校3年生の時でした。場所は「さいたま市・大宮市民の森」でした。

行ってすぐに、いろいろな人が親切に鳥のことを教えてくれました。私は、行くまでに全然鳥のことは知りませんでした。クイナとアオジが出た時に、みんなはクイナを見ていました。私は、

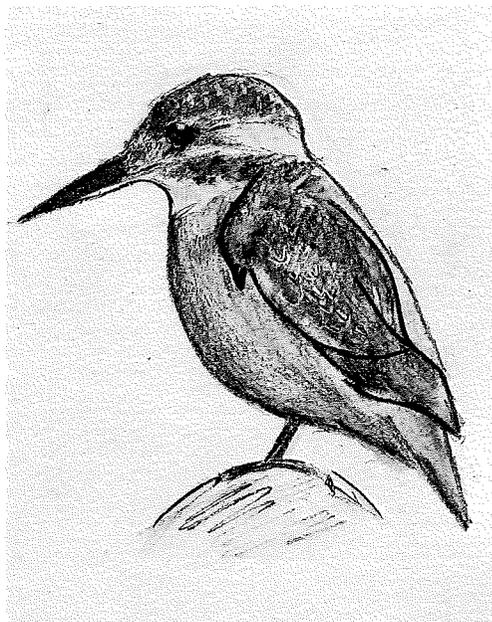
「どうしてきれいなアオジより、地味なクイナばかり見ているんだろう」と不思議に思いました。

探鳥会に行くたびに、カワセミなどを見て感動します。そして

「鳥って、美しい生き物だな」といつも思います。

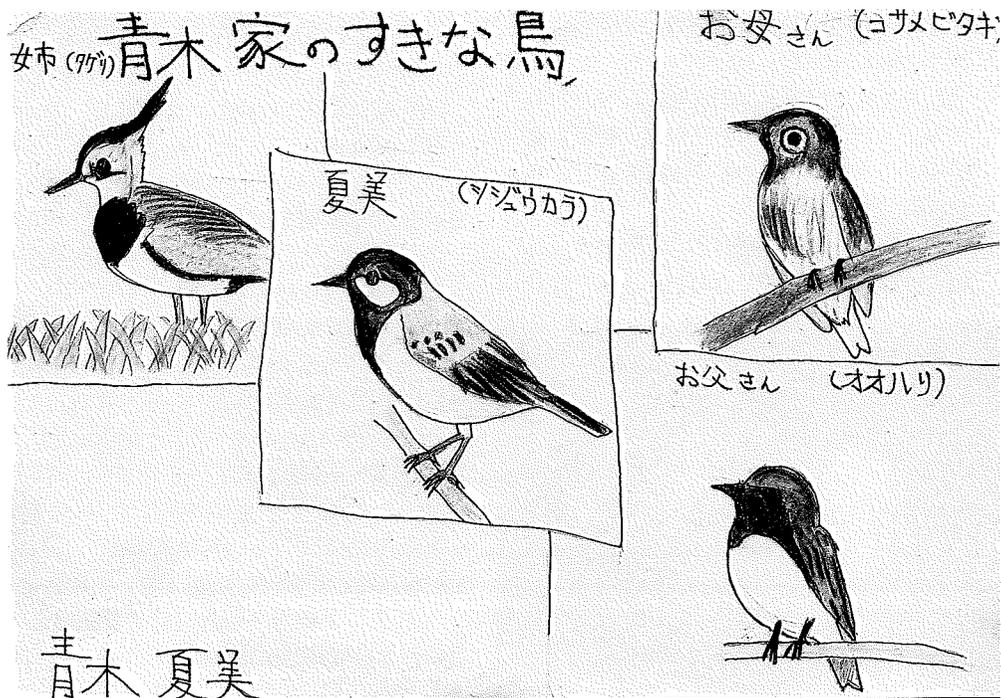
たまに、つかれていて行きたくないと思う日もあります。でもやっぱり、行くとなんとか元気が出てきます。

中学生になって、部活で探鳥会に行く回



カワセミ (青木里美)

数が減りました。しかし、これからも皆さんに教えてもらったことを大切にしたいと思っています。



青木家の好きな鳥 (青木夏美)



## 野鳥情報

**坂戸市北大塚** ◇4月13日午前10時30分頃、高麗川左岸の林でヒレンジャク14羽の群れの中にキレンジャク1羽。右岸側の浅羽ピオトープと行き来しているようでした。一帯には実が餌となるジャノヒゲやヤブランが群生している(増尾隆)。

**坂戸市西坂戸2丁目** ◇7月22日午後0時40分頃、自宅前路上から200mほど離れた住宅地裏の林の、高い枯れ木の梢にオオタカ幼鳥1羽。「ピューイ、ピューイ」の鳴き声で気づきスコープで観察。上面褐色で胸に縦斑を確認。2度飛び立っては元の位置に戻り、午後5時20分まで見られた。7月25日午後5時10分～15分、7月27日午後4時10分にも同所で、同個体が止まっていた(増尾隆、節子)。

**児玉郡神川町熊野堂** ◇6月4日午前5時20分、自宅脇の電線でカッコウがさえずる。「カッコウ♪」の声を覚ます。外に出てみると自宅のすぐ脇の電線に止まってしきりに鳴いていた。私にビックリして少し場所を変えながらも30分程鳴いていただろうか。4日に姿を確認して以来、毎日自宅を中心に半径500m位の範囲で鳴き声をする(島山麻紀子)。

**川越市南古谷** ◇7月29日、ツバメチドリ1羽(藤澤洋子)。◇7月29日、ムナグロ3



オナガ(落合英二)

羽、コチドリ約20羽(藤掛保司・宮子)。◇8月10日、アマサギ30羽の群れと20羽の群れ。2枚の田に1群ずつかたまっていた。鳥の少ない時期に意外(本多己秀)。◇8月15日、ジシギ類2羽飛翔。オオジンギ1羽、ショウドウツバメ(鈴木紀雄)。

**狭山市** ◇アオバズク繁殖、今年は3羽が巣立ちしました。例年と同様に8月17日頃いなくなりました。南への旅立ち?(久保田忠資)。

**吉見町八丁湖** ◇8月27日、カラ類の混群にエナガとセンダイムシクイ。カッコウ、赤っぼい個体もいたが若鳥?(編集部註:カッコウのメスには「赤色型」がまれにあります。) サンショウクイが「ヒリリ、ヒリリ」と鳴きながら上空を旋回。アオゲラファミリーが3羽で行動していた。湖面ではカルガモ、カイツブリ、アオサギなどが(長谷川訓寿)。

**さいたま市大宮区第三公園付近** ◇4月17日、芝川の川面もカモたちの姿がめっきりと少なくなり寂しい。それでも、キンクロハジロ、ハシビロガモ、オカヨシガモ、コガモ、カルガモの姿がみられ、いづらか慰めてくれた。上空を南西から北東方向にヒヨドリの群200羽程が帯状に横に広がり高いところを飛び去っていった。ヒメガマ、アシの新しい命がのびはじめ、オオヨシキリが鳴いてくれるのももうすぐ(赤堀尚義)。

**さいたま市岩槻区上野** ◇6月2日、元荒川にかかる城北大橋の上流側でシラコバト4羽確認(鈴木紀雄)。

**さいたま市岩槻区野孫** ◇6月5日、久々にケリ2羽確認。営巢の気配なし(鈴木紀雄)。

**さいたま市岩槻区高曽根** ◇6月9日、ケリ3羽、少々場所を移したか(鈴木紀雄)。

**さいたま市岩槻区太田** ◇8月2日、実家の庭でヒヨドリの幼鳥3羽が水浴びにやってきました。幼い顔つき(鈴木紀雄)。

**さいたま市岩槻区岩槻文化公園** ◇8月10日、コムドリ40羽+確認(鈴木紀雄)。

**さいたま市岩槻区岩槻駅前** ◇8月18日夕方、ケヤキの木にムクドリ、スズメの大群。上空をチョウゲンボウ通過(鈴木紀雄)。

**さいたま市岩槻区加倉5丁目** ◇8月19日、岩槻ファミリーゴルフの鉄塔のてっぺんでチョウゲンボウ1羽、盛んに鳴いていた(藤原寛治)。

**さいたま市桜区大久保農耕地** ◇6月4日、カッコウが鳴く木を見たらキジがいた。キジもおだてりや木に登る? それともキジだって高いところから自分の縄張りを見なくなる? この時季時々見るけれど、やはり何か似合わない感じ。6月12日、アマサギ15羽。1枚田んぼを隔てた畦でキジ♂1羽、豪快に鳴く。7月2日、大久保農耕地へ向う途中、コチドリの家。親鳥2羽、ヒナ2羽。けっこう大きくなって、しかも暑い日なのに、まだ親の胸の下にもぐりこんでいる(海老原美夫)。◇6月6日、B区でオオタカ若鳥1羽。6月12日、アマサギ22羽の群れ、久し振りに集団を見た感じ。6月22日、カッコウ3羽鳴いている。アマサギ、チュウサギなど。5~6人の人だかりが見えたので、尋ねたら、シロハラクイナとのこと。1羽は畔に上がって、しっかり確認。2羽が鳴いていた。8月15日、電線にとまるムクドリ約50羽の中にコムドリ♂若鳥1羽(鈴木紀雄)。◇7月27日、B区でアカエリヒレアシシギ1羽(藤掛保司・宮子、大坂幸男)。

**さいたま市緑区上野田** ◇6月13日、田んぼの畔でカルガモとともにいるコガモ♀1羽。6月14日、ほぼ同所で、昨日のコガモに加え、マルガモ(マガモとカルガモの雑種)♂1羽とマガモ♀1羽も出現(鈴木紀雄)。

**さいたま市緑区中野田** ◇7月22日、埼玉スタジアム南側遊水池でバン2羽、カイツブリ4羽十、営巢中や若鳥の姿も。オオヨシキリ、カルガモ、カワセミが飛び、ヨシゴイの声も。8月23日、水面をヒナ2羽を率いてカイツブリが泳ぐ。さらにバンも真っ黒いヒナ5羽をつれて泳ぐ、平和な風景(鈴木紀雄)。

**蓮田市蓮田** ◇6月1日午前5時、屋敷林でカッコウが鳴き始める。正午頃には、蓮田駅前の団地の樹にとまって鳴いていた(本多己秀)。

**蓮田市黒浜** ◇6月8日、上沼でコアジサシ1羽。なんとオシドリ♀1羽、今頃こんな所で何やってんだか。周りの田んぼでは、稲の間に立つゴイサギが目立つ。6月29日、上沼でコアジサシ4羽、その内1羽は、今年巣立った若鳥。オシドリ♀1羽も確認、まだいた。「オウオウ」とヨシゴイの声。7月27日、巣立ちビナを含むシジュウカラの家族がほほえましい。道路の水溜りでコムドリ♂1羽、周辺の樹間にも数羽いた(鈴木紀雄)。◇6月18日、黒浜沼でカルガモ、カイツブリ、カワセミ。葦原でオオヨシキリの合唱。あちこちでキジの「ケーン、ケーン」という声。上空をツバメが飛び交い、いつもと変わらぬ平和な風景(本多己秀)。

**伊奈町丸山運動場** ◇6月11日、高校のサッカーの試合中、グラウンドの選手たちの頭上を低空飛行して草むらに突っ込み狩をするオオタカ1羽、誰も気づかず。カラス大騒ぎ。上空高くイワツバメ舞う(鈴木紀雄)。

**越谷市恩間新田** ◇6月13日、今年もサギのコロニー健在。ゴイサギ、アマサギ、コサギ、チュウサギ、ダイサギ子育て中。7月8日、ゴイサギ、アマサギ、コサギ、チュウサギ、ダイサギが繁殖中(鈴木紀雄)。

**春日部市不動院野** ◇7月22日、小さな休耕田でケリ1羽、コサギ4羽、コチドリ7羽。ケリをこの辺りで見るのは初めて(鈴木紀雄)。

**春日部市倉常** ◇7月31日、国道4号バイパス横の休耕田でキアシシギ1羽。4時間後に再び見たら、アオアシシギ1羽に替わっていた(鈴木紀雄)。

#### 表紙の写真

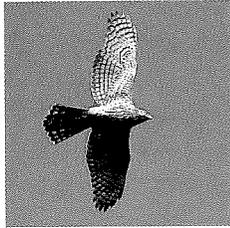
##### スズメ目ツグミ科ノビタキ属ノビタキ

いつもの季節にいつもの場所で、いつもの通りに会えるのに、会えばついうれしくなっていて、毎年毎年カメラを向けてしまう、ノビタキは、そんな鳥の一種です。

次号は11月号。あなたにとっていかに11月! という鳥は何ですか。投稿をお待ちしています。  
(編集部)



## 行事案内



オオタカ(町田好一郎)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：一般 100 円、会員と中学生以下 50 円。持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

### 北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：10月1日(日)

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前から8:31 発北里メディカルセンター病院行きバスで「自然観察公園前」下車。

担当：浅見、岡安、大坂、内藤、島田、立岩、永野(安)、永野(京)、山野、長谷川

見どころ：この時季は鳥の種類はあまり多くありませんが、秋の草花や虫たちはにぎやかです。植物好きの人、昆虫好きの人も集合。鳥好きの人は思わぬ珍鳥に出くわすことを期待して集合。皆で秋の一日を楽しみましょう。

### さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

<差間コース>

期日：10月1日(日)

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園駐車場、念仏橋バス停前。



キンクロハジロ(本橋紳浩)

交通：JR浦和駅西口バス1番乗り場から、8:31 発浦和美園駅経由埼玉スタジアム行きで「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤(芳)、工藤、倉林、若林、新井(勇)、赤堀、藤田(敏)

見どころ：さわやかな風とともに鳥たちの移動の季節、じっくりと観察すれば思いかけない出会いも……。去年は猛暑の厳しい一日でしたが、今年は秋らしい一日を期待しましょう。

### 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10月8日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9:11 発、または寄居8:49 発に乗車。

担当：大澤、中里、後藤、和田、森本、倉崎、高橋(ふ)、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、島田、千島、鶴飼

見どころ：今年も冬鳥たちの渡りの季節がやってきました。ツグミやジョウビタキとの再会を期待しましょう。高い空のもと、明戸堰まで歩きます。

### さいたま市・大久保農耕地探鳥会

期日：10月9日(月・祝)

集合：午前8時、JR浦和駅西口バスロータリー。集合後バスで現地(「やつしまニュータウン」下車)へ。

担当：福井、小林(み)、海老原、倉林、森、  
渡辺(嘉)

見どころ：当たり外れの多いところ。当れば  
サギ類の総出演にオオタカ、ノビタキ  
などなど。外れるとカラスにムクドリ、  
カワラヒワ、後はひたすら歩くだけ。  
さあ、いらっしやい。

### さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：10月15日(日)

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東  
口、集合後バスで現地へ。または午前  
9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺(周)、若林、  
小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野  
澤

見どころ：見沼田んぼの稲刈りも終わって、  
秋の風景が広がります。田んぼを吹き  
ぬける風もさわやか。冬鳥が姿を見せ、  
芝川にカモたちが帰って来ます。ぜひ  
三室にお出かけください。

### 『しらこぼと』袋づめの会

とき：10月21日(土)午後3時～4時ころ

会場：支部事務局108号室

道順：浦和駅西口から県庁通りを少し進み、  
三菱UFJ信託銀行角を左折、旭通り商  
店街を抜けて高層ビル角の信号を直進、  
次の変形三つ又の真ん中の道を進んで、  
右側。

### 長野県・戸隠高原探鳥会(要予約)

期日：10月21日(土)～10月22日(日)

定員に達したので締め切りました。

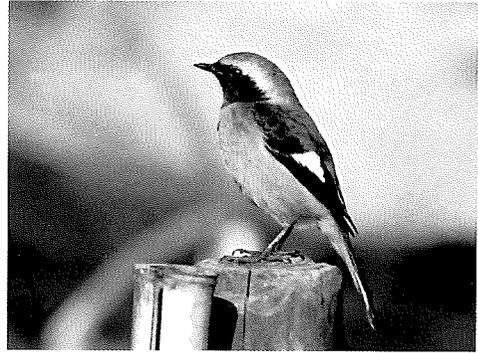
### 行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：10月22日(日)

集合：午前9時30分、県立さきたま史跡の博  
物館前レストハウス。

交通：JR高崎線吹上駅北口から、8:50 発朝日  
バス行田車庫(佐間経由)行きで、「産  
業道路」下車、徒歩約15分。

担当：内藤、岡安、和田、立岩、栗原



ジョウビタキ(松村禎夫)

見どころ：高い空、色づく柿がさきたまの秋  
景色。なんとしてもジョウビタキの登  
場で今秋の初見としたいですね。

### 川越市・西川越探鳥会

期日：10月22日(日)

集合：午前9時10分、JR川越線西川越駅前。

交通：JR川越線大宮8:36→川越にて8:57  
発に乗り継ぎ乗車。

担当：佐久間、長谷部、山本(真)、中村(祐)、  
池永、山本(義)、山田(義)

見どころ：入間川の秋、今年はどうな秋色に  
なるのでしょうか。夏頃からいるモズ  
と、オオタカ、カワセミ、北からのジ  
ョウビタキを期待して歩きましょう。

### 北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：10月29日(日)

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。  
または午前8時30分、中央エントラン  
ス駐車場。

交通：東武日光線新越谷7:20→春日部7:35  
→栗橋7:54→柳生8:05着。またはJR  
宇都宮線大宮7:07→栗橋7:41着で、  
東武日光線乗り換え。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン。

担当：内田、橋口、玉井、田邊、四分一、  
中里、鬼塚、植平

見どころ：渡良瀬に来る珍鳥を追うのも良い  
けれど、秋はやはり長旅の疲れを癒し  
てくつろぐなじみのカモたちを、ゆっ  
くりと、エクリプスの色合いなども観  
察したいもの。



## 行事報告

2005年9月 タカの渡り調査

ボランティア：総人数不明

(小川げんきプラザ：25日) 鶴飼喜雄、千島康幸、後藤康夫 (物見山：23日) 榎本秀和、榎本みち子、大勝学、尾崎甲四郎、澤井清、鈴木敬、中里裕一、逸見嶮 (天覧山：25日) 佐久間博文、大塚氏ほか

4月9日(日) 所沢市 狭山湖

参加：36名 天気：晴

カイツブリ アカエリカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ アオサギ トビ オオタカ コジュケイ コチドリ キジバト アオゲラ コゲラ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ ツグミ ウグイス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ アオジ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス (26種) 湖面に波が立つ程の強い北風に吹きまわられながら、数日前から入っていたアカエリカイツブリ(当地では稀・夏羽)を確認することが出来た。カンムリカイツブリも数は少なかったが、きれいな夏羽をしっかりと観察。ただ、カモ類が全く出現せず、狭山湖の“シーズン終了”を印象付けられた。(石光 章)

4月15日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア：14名

浅見徹、江浪功、海老原教子、大坂幸男、尾崎甲四郎、佐久間博文、千野安以、時吉由子、原田譲、檜山大介、檜山秀樹、藤掛保司、増尾隆、松村禎夫

4月16日(日) さいたま市 三室地区

参加：74名 天気：曇

カイツブリ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ オオタカ チョウゲンボウ キジ クイナ バン イソシギ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ム

クドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 時々小雨がこぼれる探鳥会であったが、4月は新学期だからなのか新しい人や子供たちが多数参加してくれた。「楽しかった」という子供たちと若葉の桜並木を帰って来た。館長さん交替。内田前館長さんに感謝。渡邊新館長さんよろしく。

(楠見邦博)

4月23日(日) 東松山市 物見山

参加：32名 天気：曇

カワウ カルガモ オオタカ コジュケイ キジバト コゲラ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス キビタキ エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ シメ スズメ ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) オオタカが鉄塔の頂上に止まっている姿を全員がゆっくり観察できた。ウグイスの声を聞きながら、里山の新緑とチゴユリの群生地や八重桜の花を見た。物見山頂上では、色鮮やかなツツジの花を觀賞しながら鳥合わせをし、「渡良瀬遊水池をラムサール登録地に指定するための要望書」への署名協力を参加者にお願した。また、探鳥会途中で、東松山市役所の環境産業部環境保全課の方々に会い、支部報を渡して情報交換をした。

(藤掛保司)

4月23日(日) さいたま市 秋ヶ瀬公園

参加：55名 天気：曇

カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ オオタカ チョウゲンボウ キジ クイナ コチドリ イソシギ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ アカハラ ツグミ ウグイス セッカ オオルリ シジュウカラ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 雨を心配しながら始める。鴨川排水機場前でカルガモ、コガモ、オカヨシガモを見てみると、クイナ出現、イソシギも3羽ほど飛ぶ。いざ公園へ。土手を越えて子供の森へ。アオジ、ウグイスのさえずり、コゲラの声。小さい花を見ながら行く。オオルリの声に足が止まる。居た。それから30分近く、サービスの良い彼を皆十二分に楽しんだ。

(倉林宗太郎)

4月29日(土、休) 春日部市 内牧公園

参加: 56名 天気: 曇

チュウサギ コサギ カルガモ ツミ キジ コチドリ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ツグミ シジュウカラ メジロ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (23種) 今年は鳥影が少なく、ちょっと寂しい感じがしたが、生垣の小径ではキジの雄雌が姿を見せ、しばらく美しい雄を觀賞できたし、キツネアザミの花にヒバリが止まり、囀る様を全員がじっくり見られ、まずまずであった。

(石川敏男)

4月29日(土、休) シギ・チドリ類調査

ボランティア: 13名

浅見徹、石井智、海老原教子、海老原美夫、大勝学、北村隆、久保田忠資、佐久間博文、志村佐治、新部泰治、福井恒人、藤掛保司、藤掛宮子◆結果は2006年8月号に報告された。

5月3日(水、休) さいたま市 秋ヶ瀬公園自然観察会

参加: 13名 天気: 快晴

コサギ キジ キジバト コゲラ ツバメ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ センダイムシクイ キビタキ シジュウカラ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシブトガラス (15種) 秋ヶ瀬ピクニックの森は、ハンノキ林の所々にヨシ湿原(低層湿原)がある。田が放棄された後、水が溜まりヨシ湿原に戻った。今回のテーマは「ヨシを調べる」。ヨシ湿原で50cm四方の方形区を取り、植物の生育を調べた。ヨシ新株は20~21株、1方形区のみタコノアシが生育していた。ヨシ新株の高さ(稈高)は110~142cm。昨年の稈高は280cm。稈高3~4mが全国各地で珍しくない中、当地のヨシは低い。冬に水が枯れる当地のヨシの生育条件は悪い。荒川の通常水位は当地より5m下で確実に乾燥が進んでいる。チョウジソウがここかしこに咲いている。秋ヶ瀬でいつまで見られるだろうか!

(小荷田行男)

5月5日(金、休) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加: 64名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ バン コチ

ドリ シロチドリ メダイチドリ ダイゼン キョウジョシギ トウネン ハマシギ オバシギ エリマキシギ キアシシギ イソシギ オオソリ ハシシギ チュウシャクシギ セイタカシギ セグロカモメ コアジサシ キジバト ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (38種) 潮回りが悪いのが幸いして、残った干潟にシギ・チドリが勢揃い。シギもみじを楽しめた。珍鳥エリマキシギにも対面できた。この幸運は誰の人徳だろうか? (杉本秀樹)

5月7日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加: 19名 天気: 曇時々小雨

カイツブリ カワウ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ コジュケイ キジ バン オオバン ムナグロ キョジョシギ イソシギ コアジサシ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ ツグミ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ メジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) リーダーを悩ます朝の空模様、予報は雨。曇天のなかともかく出発。お目当てのムナグロは田んぼに数羽、ともかく居てくれた。まもなく40~50羽の群れが飛来、飛翔を追うも降りてくれず。コサギ、アオサギなどを見ながら田んぼを後にする。黒浜沼ではコアジサシが待っていてくれ、ときおりダイビングを披露。鳥影は少し薄めだったが、34種の鳥たちが出てくれた。 (田中幸男)



チョウジソウ(秋ヶ瀬公園ピクニックの森)



●シロハラクイナのNHK放送について

8月29日(火)NHKテレビで、本誌でも繁殖記録を発表したシロハラクイナの映像が放送され、そのことについての批判が支部事務局に寄せられました。

シロハラクイナについては、すでに本誌やインターネットなどで公表はされていますが、NHKで放送されたとなると影響は桁違いに大きく、かつてヒレンジャクの放送で100人以上が押し寄せたことがあります。今回は、現場では稲刈りの時季を向かえ、農家との間にトラブルが起きないように気を使っている最中に放送されたものです。だから、当然そういう影響について考えるべきであり、支部としての指導も足りないのではないかということです。

実は、支部事務局には当日の午後、NHKさいたま支局から、「こういう放送をするが、問合せ先は埼玉県支部としてよいか」という電話がありました。内容を聞いて直ちに問い合わせ先とされることを断り、逆に、上記のような理由を挙げて、放送の延期を強く求めました。

それでも、場所が細かく特定できないようにするから、問い合わせがあっても教えないから、などということで放送されてしまった、という一幕もありました。力足らず、申し訳ありませんでした。

●『新・渡良瀬遊水池』販売

渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会編、A5版136ページのこの本で、遊水池の歴史、現状が分ります。「遊水池をラムサール条約登録地に」署名運動の一環として販売することになりました。定価本体1,000円+税のところ、当支部では税込1,000円で販売します。探鳥会などでお求めください。

●奥秩父鳥獣保護区特別保護地区の指定

長野県、山梨県と接する秩父市大滝地区の亜高山性原生林を含む地域1,943.8haを、平成18年11月1日から8年間、基本として現状のまま保全、山小屋の改築なども連絡調整が必要な特別保護区とすることについて、県みどり自然課から意見を求められ、8月21日、賛成意見を提出しました。

●事務局の予定

- 10月7日(土) 編集部・普及部・研究部会議。
- 10月14日(土) 11月号校正(午後4時から)。
- 10月15日(日) 役員会(午後4時から)。
- 10月21日(土) 袋づめの会(午後3時から)。

●会員数は

9月1日現在2,278人です。

活動報告

- 8月12日(土) 9月号校正(海老原美夫・大坂幸男・藤掛保司・山田義郎)。
- 8月20日(日) 役員会(司会:浅見徹、各部の報告・関東ブロック協議会準備・リーダー研修会準備・「探鳥会の進め方」改訂・県内野鳥リスト2006の発行・その他)。
- 8月21日(月) 9月号を発送(倉林宗太郎)。
- 同日 関東ブロック各支部に、協議会に関する連絡(第2報)をメール発信。

編集後記

最近、昆虫にはまりつつあります。楽しみが増えているのですが、鳥、植物、チョウ、トンボと、野外に持って行く凶鑑も増えてしまい、荷物が重くなる一方です。身近な昆虫が一通り載っていて、しかもコンパクトな、『山野の鳥』『水辺の鳥』みたいな昆虫凶鑑、あったら教えてください。(みどり)

しらこぼと 2006年10月号(第270号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)  
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130  
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号  
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/  
 編集部への原稿 yamazekuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com  
**住所変更退会などの連絡先は** 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階  
 (財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608  
 本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生コート紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社